

おんちゃん和猫と、あと言葉おもちゃ

そろそろ8月も終いになりそうな、ジリつく暑さはまだ続きそうな、へばる暇もなさそうな、そんな吾輩。出会ってしまった茶トラ猫ひとつ。毛皮が暑そうで脱いでもいいよと言いたくなるような。いやでも、可愛らしいからそのままでもいいよと言ってしまふ。可愛いなんて言ってしまったが最後、責任問題になってしまうような。気にしすぎかとも思われたけども、気にしてしまつたが最後よ、そういうもんよ。

野良犬はあんまり見かけなくなつたね。病気の事もあるから厳格に管理されるようになったのかしら。でもネコちゃんは野良がいるね。でも野良かどうかなんて分からんから本人に聞いてはみるんやけど、いまだ応えてくれるネコちゃんには会つた試しがない。「おい、どうで暑いねえ、ちゃんと水飲まんとネコとはいえ熱中症になるで、いや、怪しいもんじゃない、と言うても警戒するでね、まあそう逃げ出そうとせんでもえいがね。」とまあこんな感じでアプローチしていく。応えはないけど、しゃべりながら観察する。毛並み毛艶、目ヤニの付き方から、ケガのあるなし、尻尾の特徴、近ければ鼻の湿り具合、そして歳。人間がしゃべりかければネコも何かしらと反応する。無視はあまりない、敵意はある。人慣れした飼ひ猫ならだいたい逃げずに触らせてくれたりもする。人にもよるけど。

私は猫好きだと思ふ、犬より猫派なのは間違いない。だいたい猫を見かけると目が合うまで見てたりする。彼らはこっちが見ているのに気付くまではリラックスして余裕を見せているけど、見られているのが分かつたら警戒モードでこちらを凝視する。目と目が合うのは相手に集中しているのが分かるからとても良い。人同士だとメタなメッセージが表情から読み取れたりするけど猫は分からない。常に警戒を解かずに何かを仕掛けるわけでもなく、即逃走するわけでもなく、こちらをうかがう様子でただ見ている。分からないのはとても良い。分かる時の嬉しさを一層際立たせるから、分からず見つめ合うのはとても良い。ま、そうは言つても猫の場合は体全体が見えるので毛並みや動き方、体格なんかで歳が想定できたりするので分かるっちゃ分かるんだけど。冒頭で出てきた茶トラ猫から分かつたことは腹ペコ、年老いている、暑さでまいつている、少なくとも現在は飼ひ猫ではない、最後に助けを求めてはいるが擦り寄るほど気高さを失つてはいないということ。警戒状態でこちらから一歩踏み出すと、茶トラ猫は逃げる動作に入る。もう一歩近づくと3歩ほど茶トラ猫は引く。この時の動作スピードで老猫か若猫かわかり、こちらを警戒してはいるがほしい物を期待しているかが分かる。ほしい物は大体メシだ。一目散に逃げる場合はこちらに期待していない、引きながらこちらを確認している場合はメシとかもらつてやらない、という態度だつたりする。茶トラ猫は年寄りで腹ペコなのはこれで分かつた。1度寝込みに近い時とメシをやるときに確実に老猫と分かつたのだが。そう、茶トラ猫にメシを食わしている。長年いろんな猫を見てきた私から言わせてもらえば、おそらくこの茶トラ猫は死期が近い、長くて一年以内に死んでしまふだろう。野良は寿命が短いもんだ、病気ももらいやすいし、ケンカにケガも多いだろうから。そして猫の習性上群にならないから一人ぼっちだ。飼ひ猫

でも外飼いでいる猫は死ぬ前に姿を消し死地に向かい、一人ぼっちで死ぬ。もしかするとこの茶トラ猫も元は飼い猫だったかもしれない。

今日もメシをあげてきた。日が暮れかかる時間帯は過ごしやすいのだろう冷たい地面を選んで寝っ転がっていた、茶トラ猫。しばし話をしてみる。「今日は眠れたのか？あくびをしているな、まあそれならいい、腹は減っているのか？まだ眠たいか、わしを覚えているか？目も鼻も耳もだいぶ使えなくなってきたな。そのままでもいいから聞いてくれ。わしも今日はくたびれた、夜は涼しくなったが昼間はまだまだ暑い。今日も一日汗をかいたし明日の事を考えながらこの後は筋トレでもするつもりだ。ああ、コーヒーの香りは好きじゃないのは知ってるが腰を下ろして話すときぐらい何かしら飲ましてくれ。お前は人が好きじゃないのだろう、先週末沢山人が来たとき隠れていたのを知っているぞ。人間も良い奴ばかりじゃないからお前の態度は正解だろうな。お前がいくつかは知らないが最後まで猫として、いや野良としてかもしれない、生き様を貫くのはわしからの敬意に値するぞ。そろそろ暗く見えなくなってくるな。どれ、聞いてくれた礼と言うことで焼カツオでもどうだ。」こんな事を思ったか言ったか覚えてもいないが茶トラ猫は私が落とした焼カツオを啜って私から一定距離を保ち食べ始めた。顔を地面に近づける時に肩の骨人間の肩甲骨にあたるところが背中に浮き上がる。痩せているのがよく分かった。老猫になると歯が弱り噛む力も衰える。だから硬い飯は食うのが難しい。焼カツオなら食えるだろうと思って持ってきている。ひょっとしたら最後の晩餐は今晚かも分からんからな、焼カツオは贅沢だとも思ったが私もマグロの煮付けが晩飯だったから、お互い贅沢かもな。

もう何日も茶トラ猫を見かけていない。雨が続いたから会いに行けなかったのもあるが、忙しくしていたから。久しぶりに焼カツオを持って行った。いつもの場所にはいない、周辺を探してみても、猫を探しているように見えないようにさりげなく歩き回る。やはりいない。あるのはカリカリの工サが二山だけ。誰か私と同じようにメシを食わせてやっていたようだ。だがカリカリは老猫が食べるにはしんどいメシだ。もう少し相手を見てやってほしいと思う。そんな事を思ったとて茶トラ猫は全く姿を見せない。どこか別に移動したか、元の飼い主にでも見つかったか、もしくは。また後日に来てみるとしよう。

どうやら、ここにはいなくなってしまったようだ。もはや猫の気配はない。これもまたよし。猫とは基本的に一期一会、こうなる事も想定しておくものだ。会いたいなと思っていればなかなか会えず、触れたいなと思っていても離れていく、じゃあいいかとそっぽを向けば擦り寄ってくる。これが猫なんだろう。やれやれ、女と一緒に。と80年代のドラマなセリフを吐きそうになったが似合わないので酔っぱらった時に取っておこう。願わくば、くたばることなく野良道を進んで行けよ茶トラ猫。

えー、とですね。この後昔の飼い猫の話やらを書こうと思うてたんですが気分が変わりまして全く猫が関係ない話を書きます。あまりに唐突なもんで自分でも驚きなんでございますが、仕方ありやあせん。あっちにふらり、こっちにふらりと風見鶏にヤジロベエが乗った風来坊なもん

で、ここは一つ許してやっておくんなせえ。題して「言葉おもちゃ」とでもいいやしょう。十人十色と言うけれど、一人でとりどり一人十色ができちまう、あつしだから気が付いた、言葉の違った使い方、不作法不慣れなお駄文の、上から失礼いたしやす。

時々ね、意味不明な文面が降ってくるのよね。そのままじゃホントに意味不明なもんで少し解読しながら書いたりするんやけど、それでも分かりにくかったりする。まあ、ええかと、そのまま書きっぱなしにするけど、どうも意味不明な文面を出力する事は無意味でも無いみたい。

人が言葉を使い始めるのっていつからか。知らんけど。しゃべりはじめるのが2歳までぐらいやろう。5歳とか6歳ぐらいで小生意気な言葉遣いをやりやがって、小学生で作文が書けるぐらい文章力が身につく感じやね。その後は大量に語彙が増えていって、論理的な書き方なんか勉強しちゃって、気が付いたら、くだらん大人になるんやろう。この過程において子供は周りの人から、書かれた文章から、言葉をどう使うか、単語の意味は何で単語と単語をつなぐのは何何で、それぞれ何を意味し指しているのか、とかとか使い方を学んでいくと。そして、頭の中を言葉にして出していけるようになり、気持や感情、想いなんてものまで表現できてしまう。気が付けば社会や国、組織も言葉で表わすことができちゃって、いやあ、便利ね言葉ってやつはね。そんな言葉の万能性を子供の内から頭の中にねじ込んでいくのが私達の生きる世界なんだろうなあ。うんうん、改めて書くとクソ行。社会が言葉を人にねじ込んでいくときには、ちゃあんと正しい使い方を教えます。少し見ていきましょう。

先生「文字を書くときに使うのは鉛筆といいます。ゲームをしたり勉強にも使えたりネット検索したりできる平らな端末はタブレットといいます。両方使ってみるとどんな文章ができるだろう？」

生徒1「鉛筆は紙がないと文字が書けないけどタブレットは指あれば書けます。」

生徒2「たかし君のお父さんは失敗をして、いくつか指がありません。鉛筆とタブレットは使いにくそうです。体の落書きは知らない方がいいと言います。」

生徒3「鉛筆は上手に削れば鋭い武器になります。タブレットはその攻撃を防ぐ盾になります。」

たかし君「お父さんは鉛筆が武器になるのはムシヨの中だけで、外ではインテリがタブレットを武器にしていると言いました。」

お父さん「自分は子供の頃、満足に鉛筆も買う金が無かった。自分の子供には不自由なくタブレットを持たせようと頑張ったつもりです。なのになんで、なんでこんな事になっちゃったのか。」

先生「はい、皆さん大変良くできましたね。鉛筆やタブレットの新しい使い方や社会の裏側までしっかり予習復讐できていました。今日はこれでお終いにしましょう。たかし君はお父さんを忘れずに警察へ持って帰ってね。それじゃあ皆さん、さようなら。」

だいたいこの社会の学校も似たようなものでしょう。単語の意味を教え、単語を並べて文にし、話の流れから文脈を理解させる。言葉遣いにはルールがあり、その範囲内で使うものであると。我々はこう教えられたはずです。間違っても次のようには使わない。「墨が登らんと裏山の表に流れる清流は一級河川詐欺の片棒が二ヤけながら裏切られる、すんでの所でくたばらんとす

る若葉の裏を住処にすると別人格に譲る。」それぞれの単語の意味とが文になっているように見えるが意味が分からない。こう使えば、ルールから外れた使い方をするマズイ人だと思われかねない。いや確実にそう思われる。誤解され伝わらず無理解に苦しむ。しかし、使えてしまう。なんならもっと外れてみよう。「すべらんことぶをブーブーガッターですっぺらピッチょんとドンココフナ、ウジュウジュルなばら。」かろうじて意味ある単語が隠されているようでもあるが基本意味不明だ。しかし書いてしまふし発声もできなくはない。喋れない子供ならこんなもんかもしれない。大人が真顔でやるにはアートとでも言って置かなければ、はばかられる言葉遣いとなるでしょう。法律で禁止されているわけでもないけど、言葉を使って伝え合うという言葉の機能面を最大化した社会的要請に基づいて、伝わらない言葉遣いはないがしろになってしまっており、それを使う者もまた同様なのだと思うのよね。必要でない言葉遣いが集まり文章になっても、果たして無意味なものだろうか。きちんと使ってこそその言葉を不毛に使うってどうなるものか。伝える機能をほったらかした言葉は何の機能もないものか。ええ、私は後付けでこんな事を考えていました。

無駄な言葉もいじゃない、違った使い方でもいじゃない、伝わらなくてもいじゃない、言葉で遊んでもいじゃない。先ほど二つ無意味な文章を挙げましたが、あれこそ私の考える言葉おもちゃです。機能や役割、意味を脱ぎ去り自由に思うか思わないままに書く。そう、私達は赤ちゃんの頃に使ったやり方で言葉をおもちゃにできるはずなのです。ふっと目の前にあった言葉を拾い上げ、かじって舐めて放り投げては潰してみる。まあ、なんて余計なことをしているのでしょうか。いい歳をしたおんちゃんがこれまで学んだ言葉遣いをまるで無かったことにおもちゃで遊び、あまつさえ出力し書き上げる。私は不毛文をしたためている時、日常における抑圧や抑制からするりと脱皮して無垢なるおんちゃんになるのだ。とても心地よく、強制的にねじ込まれた言葉の使い方を哀れむ余裕さえあるのです。もし、言葉を使って考えたり書き出したりしゃべったりするのが全く苦痛でないのなら、あなたは良く訓練されているのでしょうか。私のように苦痛を感じ言葉の毒味を知っている、そんなあなたなら言葉おもちゃは遊び甲斐があるはずで。この感覚をどう伝えればよいか分かりませんが近しい事例を挙げてみます。この前テレビを見ていると、お笑い芸人がストレスの解消に赤ちゃんになると話していました。どういうことかと言うと、まず裸になります赤ちゃんですから、何にも考えません赤ちゃんですから、お風呂で水遊びをしますドアは閉めません、そのまま飛び出します廊下もソファもベチャベチャに濡れます、でもなんも気にしませんしベチャベチャが面白いです赤ちゃんですから。その後大人に戻って片付けをするそうです。これで嫌なことを忘れてたりしてスッキリするんだそうです。私の言葉おもちゃと似たような効果がありますし、抑圧と解放の関係も同じようです、考えない所もよく似ています。

順番が逆になったかも知れませんが、言葉を使うのが苦手な人や言葉が毒になってしまう人、うまく訓練が施されず言葉が浸透しなかった人に言葉おもちゃは効果的であると考えています。私の友人にもそういう人がいます。彼は仕事でトラブルがあったそうです。そのトラブルで彼はショックを受けてしまいました。家に帰りながら、どうしてトラブルになったか、なぜ対処が不十分だったか、次から予防する方法はないのか、などなど考えていたんだそうです。それはとてもリアルで何度も何度も繰り返し同じ事を考えてしまい、気が付けば2時間ぐらいシャワーを浴び

ていました。確かに反省や対策は必要かもしれませんが明らかにやり過ぎている。終わったトラブルと起こってもいないトラブルを頭で想像し続けてしまっている。その動機も不安感でしょう。これが何日も続くとなれば、とても息苦しい日常になってしまう。今現在家でリラックスしている時間なのに今現在起きていないトラブルを頭の中で言語化し続け、正しい答えを探す。しかも正しい言葉遣いで順序正しく考えようとしている。非常にしんどいと思います。私も彼も言葉の親和性はとても低いです。そこで下手な言葉遣いで何とかしようとするのは悪手だと思います。考えないようにできれば簡単ですが単純な話でもありません。何度も同じ場面が繰り返されてしまうのは仕方がないにしても言語化して考えるのは一旦止めてもいいと思えます。どうしても言葉になってしまう場合はトラブルに名前を付けてみたり、無意味な名前がいいです「ヤハレカハレ事件」とか、または単語をそのままに順番を変えて文章にしたり、どんどん無意味な文章に変えていける事が出来れば言葉の束縛からは離れます。もしかすると無駄なことを考えているから他の事を考えようと脳を騙せるかもしれません。もしくは面白いと感じさせることが出来ればこっちのものです。何かしら問題やストレスの原因、心の不調を言語化して整理して理解する事はよく言われる事だと思います。これは言葉に親和性も持つ人には有効かもしれませんが私のような言葉と相性が悪いタイプには息苦しい。逆に言語化のルールから外れた方が心地よい。そろそろまとめてみましょう。

- 言葉おもちゃとは無意味不毛に言葉を綴る事。
- 言葉おもちゃには言語ルールから離れられる自由さがあり言葉の束縛から解放される感覚を味わえる。
- 言葉おもちゃは言葉を使うのが苦手な人には向いているおもちゃだ。

以上ですね。言葉おもちゃは工らい人が見ればその奥に意味が見てとれるのかも知れませんがメタな事は知らねえです。それよりも実際にやってみて、やった本人がどう感じるかが重要です。良い効果があればと思いますが悪かったとしてもいいじゃない。トイレでウンコした後にウンコにクソヤロウなんて侮辱しないでしょ。コツは出したらスッキリしたと思うことです。最後ですが私は言葉おもちゃを使って小説を書いています。次回からは連載小説が始まる。はずです。書いてる本人は楽しくてしょうがないけど読んでる方は大変だと思いますがスマンびよんだびよん。